

高速時代いよいよ迫る

県勢この一年

高速時代の到来といわれて、まだ間もないが、今年はその感を深くすることはない。新幹線工事の進展、高速自動車道の着工はもちろん、大規模年金保養基地など相次ぐ大型施設の設置決定もそのあらわれといえよう。こうしたことから、また、社会福祉の一層の増進のためにも新県勢発展計画の策定となったのである。高速時代はいよいよ迫ってきた。岩手の未来を誤らないよう、県民一人一人が決意を新たに新年を迎えたいものである。

岩手のゴールデンプラン策定

一月 「いわての物産と観光展」が初の海外単独展として、ハワイで開催。県産品の展示、製作実演、懇談会などが催され好評をほくした。
第二十二回の全国高校スケート競技選手権大会に続き、第二十八回国体冬季大会スケート競技会が、新装なった県営スケート場を中心に開催された。国体には

全国から千八百余人の選手役員が参加し、史上最大のマンモス大会。常陸宮ご夫妻も来県され、連日熱戦をくりひろげたが、特に本県勢は全種目に健闘、総合六位となった。
土地利用に諸対策
二月 スポーツの生活化をはかり、健



県民待望の文化の殿堂岩手県民会館は4月1日オープンした。

康の増進と明朗で積極的な県民性を養おうと「岩手のゴールデンプラン（県民総スポーツ推進計画）」が策定された。このプランは、西ドイツにヒントを得て策定されたもので、目標年次の昭和六十年までに、総額一千億円を投入して施設の整備などを行い、県民総ぐるみのスポーツを展開しようというものである。

高速時代を迎え、県土の蚕食が心配される折、県では土地対策委員会（委員長 中村副知事）を設置して歯どめをかける

ことになり、県土地利用対策要綱を規定して、大規模な土地取得や開発をチェックすることにした。また、四月には、公用地の取得を推進するための県土地開発公社も設立。五月には、新しい岩手をつくる県民運動に「県土の虫くいを防止する運動」を追加して強力に運動を展開することにした。

宮古市の浄土ヶ浜地区に有料道路を設置するため調査することになったほか、田野畑村明戸地区には昭和四十九年四月

一九七三年県勢ビッグテン

- 一、明るく豊かな創造的生活をめざす新県勢発展計画の策定なる。
- 二、東北縦貫自動車道の着工、東北新幹線東回り決定、盛線の部分開通など、岩手の未来をひらく交通網の整備大幅に進む。
- 三、スポーツの生活化をめざす岩手のゴールデンプランすべり出す。
- 四、県民文化の殿堂岩手県民会館晴れてオープン。
- 五、県農業地域指標の策定、第一回いわて農業まつりの開催など県農政新展開。
- 六、大規模林業圏開発林道の着工決まり、北上山系開発事業いよいよ始まる。
- 七、大規模年金保養基地、勤労者いこいの村の設置決定、身体障害者（児）総合福祉施設着工など、福祉関連施設の整備大幅に進展。
- 八、松尾鉱山跡地埋め戻しと赤川改修工事に着工。北上川清流化対策進む。
- 九、福祉・環境保健行政の充実、農政の一元化など、県機構大幅に整備さる。
- 十、初の海外単独物産観光展ハワイで開催。成果あがる。

の北部陸中海岸有料道路開通にあわせ、観光施設を建設することになった。

農業地域指標策定なる

三月、岩泉町の鐘乳洞「安家洞」に「イヌワシ生息地」が国の天然記念物に指定された。安家洞は、洞くつの総延長が八キロで全国一。またイヌワシは全国でも百羽ぐらいいないと言われ、すでに天然記念となつている珍鳥。今回の指定により、それぞれ保護に万全が期されることになった。

漁業との関連などで懸念されていた広田湾工業開発は一時凍結されることになり、地元との対話を深めながら結論が出されることとなった。
農業の生産と流通を円地化し、競争力ある主産地の形成へ誘導するため「岩手県農業地域指標」が策定された。この指標は、岩手県を十八地域に区分し、三十八作目で五千四百九十七の生産円地を形成しようというもの。高速時代の到来とあいまって、積極的なたり組みが期待されることとなった。

心身ともに健全な青年を育成しようとして建設が急がれていた国立岩手山青年の家が滝沢村に開設。全国九番目である。

県民会館オープン

四月、県民待望の文化の殿堂「岩手県民会館」がオープンした。この会館は、

岩手国体を記念し建設されたもので、建設費二十二億円余、工期は三年で完成した。二千席の大ホール、六百席の中ホール、展示室なども完備して、東北随一の定評である。
県庁の機構が企画開発室の新設や福祉、環境保健の充実などで大幅に改革された。県立大船渡病院にノウホウシンが発生多大な犠牲はまことに残念であり、今後への警鐘、大きな教訓としなければならぬ。

知恵遅れの児童、生徒が入校する県立花巻養護学校が開校。この種の学校として初のものであり、関係者にとってこのうえない朗報となった。

五月、子供達が楽しみながら正しい交通ルールを学べるようにと、県営交通公園が盛岡市にオープンした。東北では初の施設である。

県モデル児童遊園「あそびの森」が盛岡市にオープンした。この施設は、遊びの中に創造力、運動能力などが開発されるように工夫されたもの。全国でも十数カ所しかない。

三陸海岸国立公園のレクリエーション基地「宮古国民休暇村」が着工された。総事業費約十億円で工期は五年間。本県では栗石町の網張に次いで二カ所目、全国では二十五カ所目である。

三陸もの魚介類は安全

六月、北上川、馬淵川の支流と久慈・

広田両湾の水質汚濁にかかわる環境基準の指定が行われた。この指定は、県が行ったものでは、宮古湾、大船渡湾に次いで二回目。国指定の北上・馬淵両川の本流、釜石湾とあわせて、環境破壊に大きな歯止めとなるものである。

魚介類のPCB、水銀の汚染が全国的に問題になったが、三陸ものは、PCBは安全、水銀の汚染も天然水銀で、安全であることがわかった。

七月、国鉄盛線(綾里―吉浜)が開通し半世紀の夢の実現とあって、特に地元三陸町では熱狂的な歓迎。三陸縦貫鉄道の貫通にまた一歩前進した。

第二有壁トンネルが貫通し、東北新幹線長大トンネル初の朗報となった。六月中旬から約四十日間ほとんど雨が降らず、明治三十三年気象観測始まって



母なる北上川の清流化のため、松尾鉾山跡地の埋め戻しと赤川の改修工事に着手した。

以来の最悪を記録。このため、水稲、牧草、野菜などほとんどの作物が被害を受け、最終的には、作付面積の約三〇%、総額六十九億六千万円の被害となり、天災融資法が適用されることになった。

新県勢発展計画策定なる

東北縦貫自動車道が着工

八月、北上川清流化対策として、松尾鉾山露天掘り跡地の埋め戻しと赤川の改修工事に着手した。

水産業の総合的振興計画を策定するため、知事の諮問機関として、県水産審議会(会長、伊藤佐十郎)が設置された。

年々増加する交通事故に対処して、「正しい交通ルールを守る運動」を強力に展開。県民みんなが英知とエネルギーを結集して、この運動にたちあがる事が強く望まれることとなった。

大規模年金保養基地が田老に

九月、地方生活圏モデル地区に、花巻市から一関市までの二十四市町村が該当する北上中部地区が内定した。これは、生活基盤の整備を一層増進しようと、カサあげした予算を付けるもの。加算総額が約三十〜四十億円になる見込みである。

「勤労者いこいの村」の西根町(岩手山麓焼け走り地区)設置が決った。この施設は、勤労者が家族とともに、自然に

県福祉相談センターが完成。従来、盛岡市内に点在していた福祉相談施設などを一カ所に集め、設備も整えて、利用者の便をはかり、一層のサービスに努めることになった。

新幹線盛岡以北

親しみながら休養、健康増進などをはかるもの。予算十二億円で、昭和五十年秋には完成の見込みである。

農村総合モデル事業実施計画地域に遠野市が内定。住みよい農村づくりをめざして、生活環境整備に取り組みることになった。総事業費は約十億円。

大規模年金保養基地の田老町設置が決まった。この施設は、老人が生きがいある生活を送るための保養地を提供するとともに、一般サラリーマンの余暇利用にも供するといふもの。総事業費二百億円で本年度中には着工の見込みである。

新幹線盛岡以北

東北縦貫自動車道が、花巻工区(八・五キロ)を皮切りによいよ着工した。この自動車道用地はほぼ買収済みで、今後は昭和五十一年の供用をめざして、急ピッチで工事が進められることになる。

東回りに決定

十月、東北新幹線盛岡以北ルートが、本県の希望どおり、八戸経由の東回りに

決定。県北開発に大きな光明となった。和賀中部大規模は場整備が完了した。この事業は、昭和四十二年から七十年、総事業費五十三億三千万円で実施されていたもの。和賀町を中心に二千六百八十五ヘクタールの近代的農地が出現した。第一回いわて農業まつりが岩手県民会館を主会場に開催。関係者や一般客で連日盛況であった。

盛岡鉄工団地計画が決定した

この団地は玉山村に建設されるもので、独自のシステムや全国に例のない工場公園の計画などが盛り込まれている。

経済優先から人間優先への国の発展基調の変化、また、本県の急速な高速化の進展などで、従来の県勢発展計画を改定新県勢発展計画が策定された。新計画は昭和四十五年度を基準年次とし、六十年年度を展望しつつ、四十八年度から五十二年までの五カ年計画。今後は、あらゆる施策がこの計画にそって進められ、すべての県民が明るく豊かな創造的生活を営むことのできるような地域社会の実現へまい進することになった。

十一月、滝ノ上(雫石町)の地熱発電計画が、熱水処理に万全を期すことで、環境庁の了承をえ、いよいよ本ポリングにとりかかることとなった。

国道四号の交通事故を防止するため、滝沢村一関市(約百十六*)を、すべて制限速度五十*以下という画期的交通規制を実施。効果が期待される。

開発と文化財保護

開発と文化財保護

民族の文化的遺産を後世に

本県における各種の開発は、東北自動車道及び東北新幹線の建設計画を契機として新たな発展期を迎え、飛躍的に増大する傾向にあります。大規模整備等の農地改良事業や工業団地、住宅団地の造成、あるいはパイパス等の道路建設、ダム建設や鉱業採掘、さらにはゴルフ場造成等の観光事業等、各種の土地開発事業が大規模に進められています。

これらの土地利用ともなつて、史跡名勝天然記念物等の文化財は、土地に密着した文化財であるという特質上、各種開発の影響を最も直接的に受け易く、保護上いろいろの問題を生ずる

傾向にあります。

現在、国及び県によって指定されている史跡等については、指定地の公有化による保存整備を拡充し、一応その保存対策が推進されています。しかし、指定以外の一般の遺跡、つまり埋蔵文化財包蔵地の保護については、その数も多く、また、包蔵地としての地域の範囲が未確定なものが多いので、開発との関連で大きな課題となっています。

文化財保護法では、開発行為にもなつてこれらの遺跡を発掘しようとする場合は国に届出をすることになっています。しかし、これだけの規制では十分に保護がはかられないところか

ら、閣議決定に基づいて、開発事業を行う場合は埋蔵文化財の保護のための事前協議を行うことになりました。

これには、開発関係諸官庁はもちろん、道路公団、国鉄、住宅開発公社等においても遺跡保護を尊重すべきことを覚書により協定し、事前協議によって開発事業との調整を行うこととしています。

本県でも、県部局間や市町村

開発関係団体はこの趣旨の徹底を図るとともに事前協議による開発との調整に配慮してきました。また、一方では、県内に所在する埋蔵文化財包蔵地の実態を把握するため、昭和三十六年以來数次にわたつて遺跡の分布調査を実施してきました。現在すでに約二千八百余箇所の包蔵地を記録しています。

これらの遺跡の保護をすすめるにあたっては、まずもつて一般県民及び開発関係者に遺跡の所在や範囲を周知する必要があります。

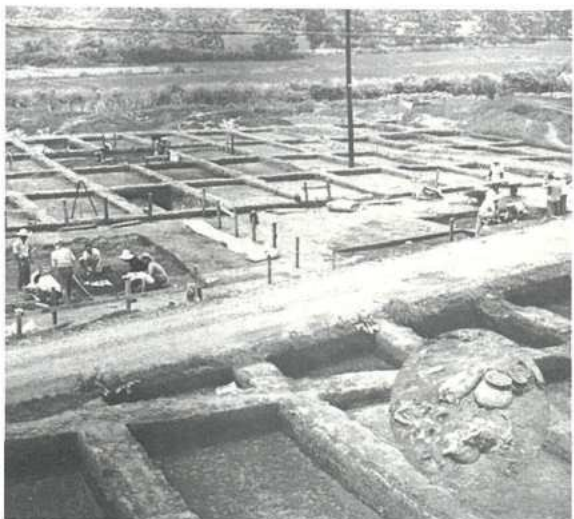
このため、県では、本年度において県下全域にわたる遺跡の一覧表とこれらの分布状況を示

す地図を作つて広く関係方面に配布することにしたほか、本年度から三年間にわたる事業として、開発の進展が著しい地域から計画的に遺跡の所在を示す標柱を設置して周知の万全を期することにしました。

また、文化財の保護は、行政面からの規制だけで所期の目的が達成できるものではなく、むしろ県民の理解と協力が大事です。そこで、数年前から岩手県

文化財愛護協会、関係市町村と共催して、県内各地で「文化財愛護の集い」を開催し文化財愛護思想の普及につとめてきています。

以上のような各種の施策や運動が効果的に展開されることによつて、開発と文化財保護の調和が保たれ、民族の文化的遺産といわれる文化財が立派に後世に伝えられるよう願つて止みません。



発掘すすむ猫谷地遺跡